



水道橋畔発

第22号 平成27年6月



巻頭言

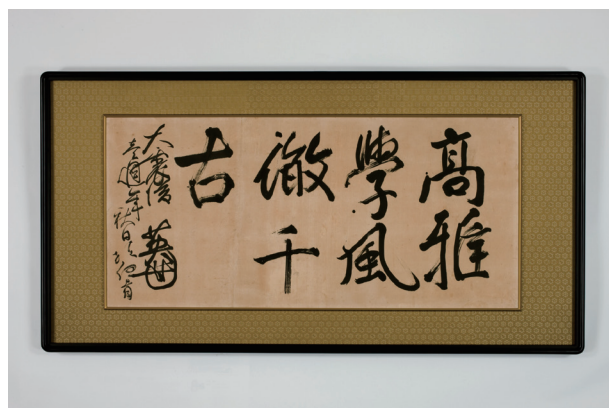
東京歯科大学水道橋病院
病院長 矢島 安朝

本年4月中旬、猪苗代湖の湖畔にある野口英世記念館を出て、小腹がすいたので食堂兼お土産屋さんの店頭で焼団子を買った時の話です。「お茶を飲んでいきなさい」と店主のおじいさんとおばあさんに誘われ、半ば強引に誰も客のいない広い食堂ホールに引き張り込まれました。「東京からきたの？東京のどこ。水道橋か。」「水道橋に東京歯科大学が千葉から戻ってきたのを知ってる？」「あの大学の創設者の血脇守之助先生は大変立派な素晴らしい人で、彼がいなかったら、野口英世が世に出ることは不可能だったんだよ。」「野口自身も一番の恩人は、血脇先生だと思っていたはずだ。」「120年以上の歴史を誇っている歯科大学だから、血脇先生の精神を受け継いでいる人はいっぱいいるよ。石塚三郎先生も〇〇名誉教授も。アンタも近くなんだから、あそこの病院で診てもらったらいいよ。」びっくりしている私の間抜けな顔を横目に、おじいさんの話は朗々と続きます。この人は只者ではない、なぜ東京歯科大学のことをこれほど知っているのだろうか、意を決した私は、ついに「私は今、その東京歯科大学で働いているものです。お褒めいただいて本当にありがとうございます。でもなぜそんなにすべてを知っているのですか。あなたは誰ですか？何者ですか？」と問いいただきました。びっくりしたおじいさんは、気まずそうな顔をして何も言わずラーメンを作る鍋の方に行ってしまう、大笑いをしていたおばあさんが、私の質問に答えてくれました。「野口英世は3人兄弟の真ん中で、野口家を継いだのは長女のイヌさん、イヌさんには4人の男の子と末の女の子の雪さんがいて、この人（おじいさんを指して）は雪さんの息子」つまり、わたくしは20分間、団子を食べながら、お茶を飲み野口英世の親族の話を聞いていたわけ

です。その後も、おじいさんとおばあさんの二人で、当事者しか知らない大変興味深い話を聞かせてくれました。団子を取り持つこの奇跡は、何かの巡り合わせとしか思えませんでした。

現在、水道橋病院では、来年の3月竣工をめざし西棟建築が順調に進んでおります。その後、本館改築が行われ、最終的には平成29年の春にすべての工事が完了する予定です。病院の器は新しくきれいになります。しかし、われわれ病院スタッフのホスピタリティ、技術、知識、言動等は、猪苗代湖の畔で東京歯科大学を信じ続けてくださる方々も含め、皆様の信頼にこたえることができているのか、もう一度真摯に見直してみたいと思っています。

水道橋病院では、患者中心の歯科医療をさらに発展させるため、4月より診療科の増設、診療スペースの拡大等を行いました。また、新しい教授も誕生しましたので、今回の水道橋畔では、これらのご紹介を中心に編集しております。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



大正13年野口英世より本学に送られた書画

病院長	矢島 安朝
副病院長	櫻井 薫
副病院長	山下 秀一郎
副病院長	高野 正行

東京歯科大学水道橋病院 診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)

H27.6.1 現在

診療科	職 名	氏 名	講座名	診療科	職 名	氏 名	講座名
保存科	教 授	古 澤 成 博	歯科保存学	矯正歯科	部長・教授	末 石 研 二	歯科矯正学
		村 松 敬			講 師	宮 崎 晴 代	
	准教授	杉 戸 博 記			部長代理・講師	片 田 英 憲	
		亀 山 敦 史			講 師	西 井 康	
	講 師	末 原 正 崇			助 教	石 井 武 展	
	助 教	春 山 亜貴子			医局長・助教	内 田 悠 志	
	医局長・助教	間 奈津子			助 教	安 村 敏 彦	
	部長・教授	齋 藤 淳	飯 塚 美 穂				
	講 師	衣 松 高 志	小児歯科	部長・教授	新 谷 誠 康	小児歯科学	
		助 教		勢 島 典	医局長・講師		辻 野 啓一郎
石 井 善 仁				講 師	櫻 井 敦 朗		
今 村 健太郎				助 教	本 間 宏 実		
補綴科	教 授	櫻 井 薫	老年歯科補綴学	口腔インプラント科	部長・教授	矢 島 安 朝	口腔インプラント学
	准教授	上 田 貴 之			客員教授	松 浦 正 朗	
	助 教	(竜 正 大)			講 師	本 間 慎 也	
		太 田 緑			助 教	佐々木 穂 高	
		和 田 健	医局長・助教		松 崎 文 頼		
	部長・教授	佐 藤 亨	助 教		高 梨 琢 也		
	講 師	(野 本 俊太郎)			古 屋 克 典		
	医局長・講師	四ツ谷 護			森 岡 俊 行		
	助 教	腰 原 輝 純	クラウンブリッジ補綴学	守 源太郎			
		宅 間 裕 介					
		小 山 拓					
	教 授	山 下 秀一郎	パーシャルデンチャー補綴学	障がい者歯科・ペインクリニック科	科長・教授	福 田 謙 一	口腔健康科学
	准教授	堀 田 宏 巳			准教授	大多和 由 美	
	講 師	三 宅 菜穂子			医局長・助教	石 岡 みずき	
	助 教	田 坂 彰 規		摂食嚥下リハビリテーション科	科長・教授	石 田 瞭	
		助 教	中 村 恵 子	医局長・講師	(大久保 真 衣)		
助 教			中 村 恵 子	健康スポーツ歯科	科長・准教授	武 田 友 孝	
			中 村 恵 子	医局長・講師	中 島 一 憲		
	口腔外科	教 授	柴 原 孝 彦	口腔顎顔面外科学	放射線科	科長代行・准教授	和 光 衛
客員教授		齊 藤 力	講 師			音 成 実 佳	
病院教授		高 野 正 行				西 川 慶 一	
講 師		渡 邊 章				小 泉 伸 秀	
助 教		村 松 恭太郎	医局長・助教			佐々木 秀 憲	
		村 山 雅 人	助 教	井 本 研 一			
		山 村 哲 生	臨床検査部	部長・教授	井 上 孝	臨床検査病理学	
部長・教授		片 倉 朗		部長代理・教授	松 坂 賢 一		
医局長・講師		笠 原 清 弘		講 師	村 上 聡		
助 教		菅 原 圭 亮		助 教	(國 分 克 寿)		
	別 所 央 城	中 島 啓					
歯科麻酔科	部長・教授	一 戸 達 也	歯科麻酔学	内 科	教 授	大久保 剛	
	医局長・講師	半 田 俊 之			准教授・科長	山 岸 由 幸	
	助 教	黒 田 英 孝	眼 科	科長・教授	ビッセン弘子		
		征 矢 学		助 教	平 沢 学		
		川 口 綾			寺 田 紗 織		

() 長期出張中

●新講座・診療科等ご紹介



パーシャルデンチャー 補綴学講座ご紹介

水道橋病院副院長
パーシャルデンチャー補綴学講座・主任教授
山下 秀一郎

この度、教授会のご推挙により平成27年4月1日付けをもちまして、東京歯科大学パーシャルデンチャー補綴学講座の教授に就任いたしました。口腔健康臨床科学講座からの移動となりますが、伝統ある補綴学講座の教授を拝命することは、改めて身に余る光栄でありますとともにその責任の重さを痛感しております。

東京歯科大学ではかねてより学生教育に対して力を入れ、教員が一丸となって現場での学生指導に取り組んだ結果、国家試験において非常に優秀な成績をおさめております。補綴学の教育体制は、櫻井、佐藤の両教授のもと、システム化され完成度の高いものがすでに構築されております。しかし、多様化する試験に対応できる体制を考えると、さらにきめ細かい教育を施すことが最良であると判断されます。このような背景の中で、私も補綴学講座の一角

に加えて頂く運びになったのだと思っております。

私は、昭和59年に東京医科歯科大学を卒業した後、藍 稔教授のもとで局部床義歯学を学び、平成11年から23年まで松本歯科大学で私学教育にたずさわってまいりました。平成23年からは東京歯科大学に勤務し現在に至っております。私に課せられていることは、現在の補綴学教育をさらに充実させ、臨床、研究レベルにおいても最高峰の講座を作り上げていくことであると認識しております。東京歯科大学の伝統を汚すことなく、自身の持っているエネルギーを全力で投入して講座運営にあたる覚悟でおります。私の育った環境は、東京歯科大学のものとは異なりますが、大学人のあり方として、“学生のため”、“患者のため”という目標に向かって邁進することには、共通のものがあると考えております。

現在、講座は半数近くが新人という若手中心の構成となっています。多少時間がかかるとは思いますが次世代の補綴専門医を多数排出できるよう、まずは地盤固めを行っていく所存です。皆様にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



さらに良質で安全な診療を 提供できる口腔外科を目指して

口腔病態外科学講座・主任教授
口腔外科部長
片倉 朗

本学の口腔外科は口腔外科学講座として2005年から1講座制で運営して参りましたが、大学機能の水道橋移転に伴う機構改革により、本年4月1日から口腔顎顔面外科学講座（講座主任 柴原孝彦）と口腔病態外科学講座（講座主任 片倉 朗）の2つの講座を設けて運営することになりました。私は講座の新設に伴い市川総合病院（オーラルメディスン・口腔外科学講座）から水道橋病院に異動し、口腔外科部長を拝命いたしました。

診療において水道橋病院口腔外科は2つの講座が共同して従来通りの運営を行ってまいりますので、診療内容や体制に変更はありません。2つの講座の運営によるきめ細かい管理体制と多角的なアプローチで診療のみならず教育、研究の面でもさらなる充実と発展を図ります。そのために本学千葉病院、市川総合病院等からも人員を異動しスタッフの増員と専門性の拡大も行いました。すべての医局員

が口腔外科全般の疾患への対応が可能です。口腔癌を含む腫瘍、顎変形症、唇・顎・口蓋裂、口腔粘膜疾患、末梢神経障害、顎関節症、智歯の抜歯など歯科口腔外科の小手術等に対して、柴原孝彦教授、齊藤 力客員教授、高野正行病院教授、私4名の口腔外科学会指導医、5名の口腔外科学会専門医、10名の口腔外科学会認定医、他15名のスタッフが各自の専門性を活かして高度な診断と治療を行います。患者様には迅速に対応し、十分な説明を心掛けて安全な医療を提供してまいります。また病院として文書管理システムを導入し、連携する先生方に今まで以上に文書による報告と連絡を徹底することで、安心して御紹介いただける診療科を目指します。一昨年に新装した外来に続き、1年後には建設中の西棟に新たな手術室が完成しハードとソフトの両面で最良の2次、3次歯科医療を提供できる環境が実現します。本学の口腔外科は1923年に遠藤至六郎教授によって開設され本年で93年目を迎えます。先人から受け継いできた確かな知識と技術に常に最新の知識と技術を研鑽して上積みすることを忘れず、先生方の信頼を裏切らない診療科を目指します。今後ともよろしくお願いいたします。



口腔健康科学講座のご紹介

口腔健康科学講座・主任教授
障害者歯科・口腔顔面痛研究室・教授
障害者歯科・ペインクリニック科科长
福田 謙 一

日頃、当病院に多くの患者様をご紹介いただき誠にありがとうございます。わたくしごとですが、平成27年4月1日付で東京歯科大学口腔健康科学講座主任教授、障害者歯科・口腔顔面痛研究室教授を拝命致しました。この紙面をお借りして皆様方にご挨拶申し上げます。尚、ご支援いただいている口腔顔面痛みセンター（ペインクリニック科）やリラックス歯科治療外来での診療は特別変わっておりませんので、引き続きご支援のほどよろしくお願い致します。

私が運営していくことになった口腔健康科学講座は、私が専門とする障害者歯科・口腔顔面痛研究室以外に摂食嚥下リハビリテーション研究室とスポーツ歯学研究室の4つの分野及び3つの研究室を複合した大変ユニークな講座です。それぞれが新しく

これからの研究分野です。それぞれの分野がコラボレーションした興味深い研究、診療を推進していこうと考えています。例えば、障害者歯科と摂食嚥下リハビリテーション学のコラボレーションでは認知症患者の口腔ケアの向上など、口腔顔面痛とスポーツ歯学のコラボレーションではブラキシズムや咀嚼筋運動障害の改善など、障害者歯科とスポーツ歯学のコラボレーションでは、ブラインドサッカーに代表される障害者スポーツの外傷防止への取り組みなどです。新しい専門外来の開設も現在検討しております。我が国は今、超高齢社会を迎え、地域包括医療が推進されていくなど、歯科医療を取り巻く環境も急激に変化しています。歯科治療は難度やリスクが高くなり、益々医療間の連携が必要になると推測されます。これからの社会のニーズや期待に十分に呼応できる講座、診療科を目指し、懸命に努力して参る所存です。新しい講座、それにとまなう診療科をぜひご支援のほど、よろしくお願い致します。



摂食嚥下 リハビリテーション科ご紹介

口腔健康科学講座
摂食嚥下リハビリテーション研究室・教授
摂食嚥下リハビリテーション科科长
石田 瞭

4月に口腔健康科学講座 摂食嚥下リハビリテーション研究室の教授を拝命した石田 瞭と申します。昨年、当院での診療科新設に際しご挨拶をいたしました。心新たに摂食嚥下リハビリテーション科科长として発展に寄与して参りたいと考えております。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

開設からの1年を振り返りますと、ゼロから極めて緩慢ではありますが、実績を残すことはできました。しかし、食べることに困っているお年寄りや子供達を外来（2階）で拝見する機会はまだまだ少なく、比較的多い訪問診療の患者様は、板橋などエリアが偏在しているのが現状です。

2年目の本年はスタッフも増え、特に近隣の先生方と連携をより強化し、更なる飛躍を目指したいと

考えております。超高齢社会において、地域ごとにご当地ケア（地域包括ケア）が模索されていきます。大都市部である水道橋近隣において、歯科がどのように地域とつながってゆくか、共に考えて参りませんか。一般歯科診療は勿論、その人らしい食生活を支援することは、歯科が率先してアピールできることです。摂食嚥下リハビリテーションはその一分野となることは間違いありません。

若い先生であれば、摂食嚥下リハビリテーションは教育カリキュラムに含まれますので素地があります。しかし、ベテランの先生方（私を含め）にとっては、そのような教育を受けておらず、未知領域といっても過言ではありません。当研究室では生涯研修としてのプログラムもあり、当科での実践を直接みていただくことも可能です。

当科の役割は、診療実績向上のみならず、歯科から行う摂食嚥下リハビリテーションの臨床実習・研修の場を提供することと考えております。是非、身近な診療科として声をかけていただければ嬉しいのです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



健康スポーツ歯科ご紹介

口腔健康科学講座
スポーツ歯学研究室・准教授
健康スポーツ歯科科長
武田 友孝

当研究室は本年4月より、口腔健康科学講座スポーツ歯学研究室として新たなスタートをさせていただきました。また、診療科としては千葉病院同様「健康スポーツ歯科」と改名し、診療にあたらせて頂いております。スタッフとしては、武田友孝准教授（日体協公認スポーツデンティスト、日本スポーツ歯科医学会認定医、日本補綴歯科学会専門医、指導医）、中島一憲講師（日本スポーツ歯科医学会認定医）および6名の大学院生が診療にあたっております。

スポーツ歯学は、歯科医学領域から、運動、スポーツ、健康を支援する学問と医療です。支援対象としてみますと、健全な心身の発達のための学校教育としての運動・スポーツ、健康作りのための生涯スポーツ、スポーツの華・競技スポーツがあります。したがって、診療内容といたしましては、運動・スポーツに関与する方々の、口腔保健の向上を通じて、運動に耐えうる体力の維持・向上、十分な栄養摂取を可能とすること、マウスガードの使用やスポーツ歯科的な指導（適切な噛みしめなど）による顎顔面の外傷の予防、口腔内のスポーツ外傷の診断・治療、選手の競技復帰に向けての支援などが主なものです。これまで、スポーツ用のマウスガードは、ボクシング、レスリング、空手、ラグビーなどのコンタクトの多いスポーツでの外傷の予防装置と考えられてきました。しかし、本口腔内装置には、

スポーツ時の噛みしめによる歯の咬耗を防ぐ効果や、全身の筋力、バランス能を向上させる機能もあることが分かってきています。そのため本装置は、サッカー、野球、ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、ハンドボール、水球、スキー、スノーボード、モータースポーツ、乗馬、体操など多くの種目での使用が望まれます。

当診療科で提供する装置は、通常の歯の治療における冠や入れ歯を作るのと同様に、上下の型を取り、噛みあわせの診査をして製作いたしますので、十分な安全性を有するのみならず、違和感が少なく、適合性に優れたものと考えております。多くの選手、スポーツ愛好家の方に快適にご使用していただければ幸いです。

また、口腔内装置の応用としての、歯ぎしり防止装置、睡眠時無呼吸に対する治療装置、周術期口腔管理装置の提供なども行わせて頂いております。さらに、歯の欠損に対する義歯などによる適切な咬合の確立および栄養の摂取、体力、筋力などの維持回復は、歩行の円滑化、転倒防止、全身機能向上に寄与する可能性があると考えられており、この点についても力を入れております。

今後、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、これまでのJOCスポーツドクターとしての経験、知識などを生かして、東京都医師会、近隣大学、病院のスポーツに関わる診療科などとの連携を強化し、水道橋病院を歯科の支援病院の1つとして、活躍できればと考えております。

多くのスポーツ愛好家、選手、スポーツ関係者、患者様、医療関係者の方に喜んで頂けるよう、日々努力を続けて行きたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。



臨床検査部ご紹介

臨床検査病理学講座・教授
臨床検査部・部長代理
松坂 賢一

いつも、大切な患者さまを東京歯科大学水道橋病院にご紹介くださりましてありがとうございます。私儀、平成27年5月1日付けで本学臨床検査病理学講座の教授を拝命しました。講座としては、井上孝主任教授とともに病理学（総論）と口腔病理学（各論）および臨床検査学の学生教育に従事し、研究では、主に歯科インプラントなどの生体材料における生体反応や口腔病変の病態学的解明、組織再生に関連した研究を行っています。

昨年度から水道橋病院の臨床検査部に歯科医師が

配属され、2名の臨床検査技師とともに、臨床検査部の充実化を計ってゆきたいと思っております。水道橋校舎西棟の完成後には、臨床支援部としての更なる機能の充実化と迅速性および正確性を極めた臨床検査部の設備を整えてゆきます。日頃、歯科医師として、水道橋病院口腔外科および他科から、そして地域歯科医院、口腔がん検診事業から依頼された病理組織診断や細胞診断に従事しています。今年度からはチタンに対する金属アレルギー検査も行えるようになり、院内および地域医療に更なる貢献ができる体制を整えてきています。現在、味覚異常外来や口腔乾燥症（ドライマウス）外来等の特殊外来を千葉病院で担当していますが、将来的には水道橋病院においても行えるよう、これまでの経験や技術を活かした患者対応を行えるようにしてゆきますので、どうぞよろしくお願い致します。



内科ご紹介

内科・准教授 科長
山 岸 由 幸

このたび、平成27年4月1日付で東京歯科大学水道橋病院内科科長に就任いたしました。

私は、平成6年に慶應義塾大学医学部を卒業し、同内科学教室にて臨床研修を行いました。研修医4年目の平成9年度には東京歯科大学市川総合病院に勤務させていただき、平成10年より慶應義塾大学医学部消化器内科に所属、平成12年11月より済生会宇都宮病院にて消化器内科臨床の研鑽を積んだ後、平成15年4月より慶應義塾大学医学部消化器内科に帰局し、以降退職時まで病棟チーフとして、入院患者全般の治療方針決定と各科各部署との調整に携わると同時に専修医、研修医の教育指導に当たってまいりました。また肝胆膵外科先生方とクラスターを構成し、急性肝不全はじめ致死性の肝疾患治療、胆膵内視鏡の分野の発展に努めてまいりました。

水道橋病院内科はこれまで仁科牧子先生のもと、専門である神経疾患の他、生活習慣病などの一般内科疾患を主として扱い、歯科とも連携し睡眠時無呼吸症候群、禁煙外来などを開始し成果をあげてきました。仁科先生にはこれまで通り外来を継続いただき、また非常勤の先生方にもそれぞれの専門を活かし循環器、呼吸器、膠原病アレルギー疾患などの診療に引き続きあたっていただいております。特に痛みや心療歯科については歯科との連携のもと専門外来を設けて対応しております。

これまで培った経験を活かし、消化器分野は更に充実させたいと思っております。上部消化管内視鏡や超音波検査装置も備えております。またこれまで通り歯科口腔外科術前の診療、金属アレルギー検査などについても継続して行いますので併せてご依頼をお待ちしております。教職員、学生の健康管理、また超高齢化社会、予防歯学医学の進歩に向けて歯科・医科の癒合を深化させ、水道橋病院全体の発展に貢献していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【各診療科等ダイヤルインについて】

※患者さまには各科の直通電話番号をお知らせ下さいませすようお願いいたします。

5階	内 科	03(5275)1926
4階	口 腔 外 科	03(5275)1725
	歯 科 麻 酔 科・ ペインクリニック科	03(5275)1851
	放 射 線 科	03(5275)1953
3階	補 綴 科	03(3262)3425 3426
	口腔インプラント科	03(5275)1760
	矯 正 歯 科	03(5275)1724
	小 児 歯 科・ 障 が い 者 歯 科	03(5275)1723
	眼 科	03(5275)1856
2階	保 存 科	03(5275)1721 1722
	摂 食 嚥 下 リハビリテーション科	03(5275)1732
	健 康 ス ポ ー ツ 歯 科	03(5275)1721 1722
1階	医 事 課	03(5275)1932
	地 域 医 療 連 携 室	03(5275)1732

※ 色部分：変更箇所

水道橋病院 診療案内

初 診 受 付	平日、土曜とも 午前9時から午前11時
お 問 い 合 わ せ 時 間	平日 午前8時45分から午後6時 土曜 午前8時45分から午後1時
休 診 日	第2土曜、日曜、祝日、 本学創立記念日（2月12日）、 年末年始

編集後記

水道橋病院は大学移転に伴い、診療室の拡張工事が着々と行われています。2階にあった血協ホールと合同医局が診療室となり、病院受付が3階から1階へ、内科が3階から5階へと移動して診療スペースが拡張されました。現在は西館の工事が始まり、完成すると矯正科、小児歯科、麻酔科も改修される予定です。院内も以前に比べて随分とにぎやかになりました。基礎を含むすべての講座が千葉から移転して、医局員や研修医、職員に加え、登院実習も水道橋病院主体となりました。今後も水道橋病院の進化をお伝えしてゆきます。
(片田英憲 記)